

平塚の石仏めぐり

7、岡崎（東部）編

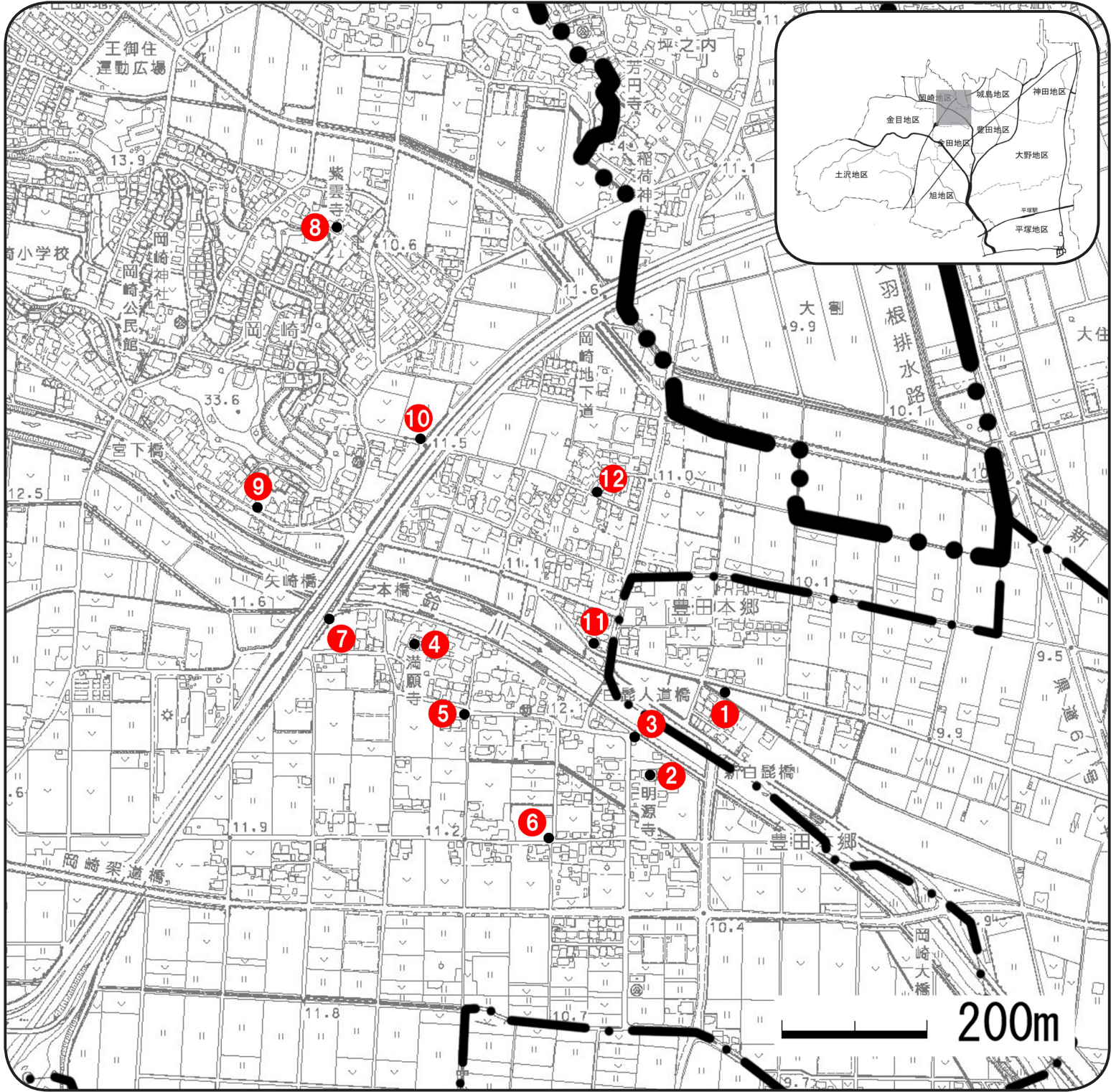


畑中市郎兵衛作の地藏尊：紫雲寺

岡崎東部（矢崎・別北）の石仏

岡崎は市の北西部に位置する地区で、伊勢原・秦野市と接しています。近世の北大縄村・丸島村・大畑村・矢崎村・西海地村・上入山瀬村・下入山瀬村・馬渡村・大句村が明治22年に合併して岡崎村となり、昭和31年に平塚市と合併しました。合併の際に馬渡と大句が伊勢原市へ分離されたため、大字岡崎は2つの市に存在しています。近世村の単位はおおむね現在の自治会に引き継がれていますが、鈴川右岸の別北は矢崎の別名と北大縄で構成され、入山瀬は上と下でひとつの組織になっています。

このマップでは岡崎東部の別北・矢崎および、隣接する豊田本郷簀子橋の石造物を紹介します。天保12年刊『新編相模國風土記稿』による北大縄村の戸数は11、矢崎村は55戸でした。北大縄鎮守の白髭神社と矢崎鎮守の八幡神社は明治42年に岡崎神社へ合祀されています。寺院は別北に明源寺と満願寺、矢崎に紫雲寺があり、宗派はいずれも曹洞宗です。当地の石造物を種別でみると道祖神と地蔵が多く、道祖神は平成時代にも複数基造立されているので新旧の石碑が並び立つ場所がみられます。地蔵では同一人物とみられる石工名が刻まれた近世中期の丸彫立像が満願寺と紫雲寺に存在していることが注目されます。



石仏豆知識4. 岡崎の道標

道標には「行き先や距離」を彫った「道案内のみ」と信仰目的で建立した石仏に道案内の銘文を併記した「道標銘」があります。平塚市内には「道案内のみ」の道標は13基です。「道標銘」は、その4倍の54基もあります。道標銘の種別は庚申塔が最も多く25基で、次は巡拝塔が9基、大山信仰と係わりのある不動明王が5基と続きます。庚申塔に多く道標が彫られた理由は、守庚申を3年間に18回重ね、不老長寿、二世安楽などを願った庚申供養塔を往還脇に建立することで、多くの人々に「古徳之偈」に『一たび塔を見れば、永く三悪道を離れられる』といった功德を願ったものと思われます。また道標に彫られた行き先の地名は、金目と大山が28例、次いで田村、厚木、平塚、大磯、十日市場の順となっています。

岡崎地区には道標が8基あります。行き先は「東」或いは「下り田村」と「西」或いは「上り十日市場」と表記されたものが各5例あり、次が大山道の2例です。「道標銘」では庚申塔が4基です。岡崎地区では7基の道標が設置後に移設されています。道標は行き先を「此方」とか「是より」とする表記例が多く、移設された場合に元の位置の推定が困難ですが、岡崎地区は東西南北とか上り下りの表記が多いため、推定の手がかりを得ることができます。また、十日市場の地名が多く、曾屋村の小名に十日市場があります。矢倉沢往還の継立地として栄え、江戸時代後期には毎月6回市が立ちました。また、駒形神社の道標銘には市内で唯一伊勢原の痢病神が彫られています。

岡崎（東部）の石仏所在地と主な石仏

番号	名 称	住 所	主 な 石 仏
1	簀子橋路傍	北豊田 917	庚申塔、道祖神
2	明源寺	岡崎 298	六地藏他
3	白髭神社跡地	岡崎 308	道標、道祖神、記念碑
4	満願寺	岡崎 346	結界石、馬頭観音、大日如来、観音、虚空蔵、地藏他
5	矢崎路傍	岡崎 427	道祖神
6	矢崎路傍	岡崎 439	道祖神
7	一本橋袂	岡崎 1464	馬頭観音
8	紫雲寺	岡崎 3910	結界石、宝篋印塔、石祠、五輪塔、法華経塔、念仏供養塔、地藏、七観音他
9	矢崎路傍	岡崎 4050	庚申塔・道標、道祖神
10	矢崎路傍	岡崎 4170	道祖神
11	矢崎路傍	岡崎 4235	道祖神、石祠
12	矢崎路傍	岡崎 4414	道祖神

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は平成26年集計時点のものです。



白髭橋より矢崎方面を望む



白髭橋より別北方面を望む

石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり（7. 岡崎（東部）編）

発行日：令和3年6月
編 集：石仏を調べる会
発 行：平塚市博物館
住 所：神奈川県平塚市浅間町 12-41
電 話：0463-33-5111

簀子橋路傍の石仏 (地図番号①)

『新編相模国風土記稿』に、豊田本郷村の小名に簀子橋があります。西は矢崎村に接し、現在の地名は北豊田となっていますが旧家の三軒は豊田本郷の飛び地に残っています。

簀子橋の路傍には、写真のように4基の石仏が集められています。右端の道祖神は自然石の中を円形に彫った双体像です。平成11年(1999)造立の新しいものですが、男神の両手の位置をよく見て下さい。愛情豊かな姿に彫られています。2番目は庚申塔で、元文5年(1740)の庚申の紀年に造立された珍しいものです。庚申年は江戸時代以降7回あり、この年回りに造立された庚申塔は市内に7基のみです。

右から3番目と5番目はいずれも碑の上部が欠損している双体道祖神です。5番目の方は『大野誌』に「天明4年(1784)甲辰の紀年、男神は長烏帽子、女神は髻で共に拱手の立像」とあります。

古い石仏を現在地の筋向いに移設した時に、体調を崩す人が続いたため、平成11年に岡本氏が鎮魂を兼ねて自然石の道祖神を寄贈し、現在地に再移設しました。

どんど焼きは傍の同氏の畑で行なわれています。



簀子橋路傍の石仏群

白髭神社跡地の石仏 (地図番号③)

鈴川を背にした白髭神社跡に、記念碑、道祖神、道標と古い五輪塔が安置されています。

記念碑 白髭神社は昔から旧大縄村の宗敬あつい鎮守でした。明治42年(1909)に岡崎神社へ合祀後も有志が旧社地を維持管理してきました。鈴川河川改修に伴い旧社地の大部分を県に譲渡した時、神社の歴史を永く後世に伝えるため平成12年(2000)に記念碑が作られました。

道祖神 気品ある男女の神が笑みを浮かべ寄り添っています。女神は小さな冠をつけ髪が足元まで伸び、お酒を入れた銚子を持ち、男神はえいを垂らした冠をつけ盃を持っています。新しい道祖神に多く見られる祝言像です。

道標 かつて大山の夏山の間、大磯方面からの参詣者は白髭神社を経て平塚方面からの参詣者と合流し大山へ向かいました。記念の道標「大山道」が新造されています。



白髭神社跡地の石仏(左より道標、道祖神、記念碑)

明源寺の六地藏 (地図番号②)

曹洞宗のお寺で、関東大震災で本堂が倒壊しましたが、平成10年に再建されました。本尊は釈迦如来です。

六地藏は安永8年(1779)に建てられ三基には「北大縄村別名村 若者中」とあります。

別名は矢崎村の一部ですが矢崎の本村とは鈴川で隔てられ、南隣りの北大縄村との関わりが深かったことがわかります。持ち物は右よりかえさる、合掌、香炉、数珠、幡、錫杖です。



六地藏(安永8年)

満願寺の石仏 (地図番号④)

曹洞宗のお寺で、本尊は薬師如来です。参道入口の小屋内に、6基の石仏が安置されています。

虚空蔵菩薩 小屋の右側に、市内で珍しい虚空蔵菩薩像があります。大空のような無限の福德と智慧を求めて信仰されてきた仏様です。昭和55年(1980)に再建されたこの座像は、宝冠を戴き、右手に福德の宝珠をのせた蓮華、左手に智慧の宝剣を持ち、座っている姿です。像の下に塔身に、大きな文字で「大願」として、別北地域の人々の「福德健康」が祈られています。

地藏菩薩 中央の地藏は、台石左面に「作者 大磯下町 市[兵]衛」とあり、大磯の畑中市郎兵衛とみられる石工が、享保2年(1717)に彫った像です。

畑中作の地藏が、矢崎の紫雲寺の小屋内にもあります。どちらも堅い安山岩製のため、保存状態が良く、像の高さは125cm。錫杖の輪の形、左手で持つ宝珠、衣の模様もよく似ていますので、比べて見て下さい。

徳延にも畑中作の地藏があります。



虚空蔵菩薩(昭和55年)



地藏菩薩(享保2年)

別北路傍の道祖神 (地図番号⑥)

別北向原の道祖神祭場には、中央に新旧の石祠が並び、左右にたくさんの五輪石等も祀られています。

古い石祠は、天保5年(1834)に建立。祠内に「道祖神」と彫られた石板が納められています。白い花崗岩製の石祠には、裏面に建立年「平成四年」と珍しく西暦「一九九二」も刻まれています。どんど焼きは、別北自治会が中心になって1月14日に行われています。



石祠型道祖神(旧:天保5年、新:平成4年)

矢崎路傍の石仏 (地図番号⑨)

ここには東方約150mの三叉路から移設された庚申塔と道祖神と一緒に新造の五輪塔が祀られています。

庚申塔道標 三叉路から移設されたことを証明するように、正面に「庚申塔 此方 屋わた 大いそ」、右面に「二十三夜待連中 上り かない 十日市場 下り たむら」と三方への道しるべが刻まれています。庚申講中と二十三夜講中が合同で建立したもののとうかがえます。裏面に「寛政十二年庚申中秋日」(1800)とあります。

道祖神 庚申塔の7年後の文化4年(1807)に造立されたこの道祖神は、自然石に「道之神」と彫られた文字塔です。道祖神の神名では「道祖神」が一般的ですが、「道之神」は市内ではこれだけです。旅人への道案内と道中の安全を祈る地域の人々の優しさと思いやりが察せられます。



矢崎路傍の石仏(左より道祖神、庚申塔道標)

紫雲寺の石仏(1) (地図番号⑧)

曹洞宗の寺院で、山号を大森山といいます。開基は室町時代の小田原城主大森信濃守氏頼とされ、若い頃ここに館を構えていたとされています。山門前の由緒碑には「大森寄栖庵氏頼公居館址」とあります。

結界石 結界石は、修行の場である寺院の敷地と俗世間とを区切る標識です。主に禅宗の寺院に建てられます。「不許葷酒入山門」とあり、葷(ニラ、ニンニク)など匂いの強いものを食べたり、酒を飲んだりして山門に入ることを禁じています。裏面には「金剛般若經千部供養塔」とあり、經典供養塔を兼ねています。明和5年(1768)の造立です。

宝篋印塔 基礎の正面に「寶篋塔」とあります。塔身は一般的には角柱ですが、ここでは円筒形になっています。塔身には、金剛界四仏の種子「タラーク」(阿閼如来)「キリーク」(宝生如来)「アウ」(阿弥陀如来)「アウ」(不空成就如来)が彫られています。基礎の左右に法華聚沙「法華 千部」とあり、經典供養塔として建てられたことがわかります。明和3年(1766)の造立です。



結界石(明和5年)



宝篋印塔(明和3年)

紫雲寺の石仏(2) (地図番号⑧)

念仏・光明真言供養塔

正面に「御念佛十万遍 光明真言 百万遍 供養塔」とあります。「南無阿弥陀仏」の念仏を十万遍、23文字の梵字からなる光明真言を百万遍、それぞれ唱える供養を行ったことを示しています。念仏や光明真言を唱えることや、石塔を建てることは、それぞれ供養になります。また、この塔を拝む人々にも供養を分かち与えることになります。天保6年(1835)に簀子橋の方が建立しました。

法華経塔

正面に「聚砂為法華経塔 六萬九千 俗写説一文一石…」とあります。法華経69,384文字を小石に一文字ずつ写経する供養を行ったことを示しています。河原の石を集め、法華経を一字ずつ写経していったものと思います。やはり塔を建てることにより、これを拝む人々にも供養を分かち与えることになります。宝永3年(1706)に建立されました。

石工銘の入った地藏

山門左側の小屋内に地藏尊が並んでいます。奥右側の地藏尊は宝永3年(1706)に建立されました。背面に「作者大磯畑中市郎兵衛」とあります。満願寺の地藏尊と造立年代も近く、同じ石工の手で作られたと考えられます。大磯は相模湾岸系石工の一大拠点でした。石材は重量があるため、流通には相模湾の海運に頼っていたことによると考えられます。

なお、地藏尊の写真は表紙に掲載しています。

七観音

人々を救うために、その場に应じて姿を変えるという観音様です。ここでは、右から千手観音、十一面観音、馬頭観音、聖観音、如意輪観音、不空羅索観音、准提観音の順に並んでいます。平成17年(2005)に台座が新設され、それぞれのお名前が彫られています。観音像には銘がなく、いつ建立されたかわかりません。七観音は、市内では豊田本郷の清雲寺にもあります。



念仏・光明真言供養塔(天保6年)



法華経塔(宝永3年)



七観音(年代不詳)